

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

プロジェクトテーマ

「地域から、未来を見すえた学びの創造」

以下の通り、学年ごとにテーマとねらいを設定し、生活科、総合的な学習の時間を中心に他教科と関連づけながら取り組んできた。

1 学年	学年テーマ	自然と遊ぼう
	ねらい	・ 地域の自然環境などにふれあう活動を通して、自然のよさに気づき、自然に親しむ子どもを育てる。
	活動内容	○校庭や地域の公園で遊び、季節ごとに植物、樹木、生き物等にふれあう。 ○地域の自然のよさについて気づいたことを伝え合う。
2 学年	学年テーマ	四倉町のすてきをさがそう
	ねらい	・ 身近な地域を調べる活動を通して、地域や地域の人々のよさに気づき、地域を大切に作る子どもを育てる。
	活動内容	○町たんけんを行い、地域の商店街の人と交流する。 ○町のすてきを調べて、わかったことを発信する。
3 学年	学年テーマ	四倉町をもっと知ろう
	ねらい	・ 地域の文化や伝統行事などを調べる活動から、地域への関心を高め、地域を大切に思う心を養う。
	活動内容	○町の神社、寺、周辺の施設を見学し、地域の文化を調べる。 ○地域の伝統芸能を体験する。 ○大切にしてきた文化や伝統芸能を調べて、わかったことを発信する。
4 学年	学年テーマ	みんなと生きる
	ねらい	・ 同じ社会で生きる人間として、高齢者や障がいをもった人たちを正しく理解し、共に助け合い、支え合っている子どもを育てる。
	活動内容	○盲導犬教室、手話教室、点字教室、認知症教室、シニア体験教室等の体験活動を通して、障がい者や高齢者についての理解を深める。 ○自分にできること、大切にしたいことを考え、発信する。
5 学年	学年テーマ	見つめようエネルギー
	ねらい	・ 多面的・総合的にエネルギーを見つめることにより、エネルギー資源の有限性や環境への影響を学び、課題を捉え、解決に向けて実践しようとする子どもを育てる。
	活動内容	○地球温暖化の原因や影響を理解し、各発電方法やその長所、短所を調べる。 ○エネルギー教室、発電所見学、放射線教室等の体験活動をする。 ○体験活動や調べ活動から課題を見だし、自分達に実践できることを考え、発信する。
6 学年	学年テーマ	地球にやさしいエネルギーとユネスコ
	ねらい	・ 多面的・総合的にエネルギーを見つめることにより、課題を捕らえ、解決に向けて実践しようとする子どもを育てる。 ・ 平和や世界遺産をテーマにした学び、自分達にできるユネスコ活動を実践しようとする子どもを育てる。
	活動内容	○再生可能エネルギーについて調べ、21世紀のエネルギー活用を考える。 ○世界遺産、ユネスコ活動について調べ、世界平和について自分のできることを考える。 ○只見町立朝日小学校と交流し、地域によって様々な特色のちがいがあることに気づく。

<実践のまとめ>

【具体的な取り組みについて】

- ① ESD の概要、ねらい、育てたい能力や態度について、教職員の理解を深めるために研修の場を設け、実践に向けての共通理解を図った。
- ② 総合的な学習の時間だけでなく、各教科、道徳、特活等との関連を図りながら ES を進められるように、先進校の取り組みを参考にしながら ESD カレンダーの作成に取り組んだ。
- ③ 本校がユネスコスクールの加盟校であることを全校児童に認識させ、意識を高めるために、掲示物等の環境を整えたり、「平和宣言」を全校生で唱えさせたりした。
- ④ 各学年のプロジェクトテーマのもと、地域の自然や文化、福祉、環境等への関心及び実践意欲を高めるために、地域の人々と関わりをもつ機会を増やしたり、外部講師の活用や体験活動を積極的に取り入れたりしてきた。
- ⑤ 同じくユネスコスクールに加盟している只見町立朝日小学校の声かけにより、朝日小学校 6 年生と本校 6 年生が互いの町のよさを紹介し合うなど、交流の機会をもつことができた。

【 成果と課題 】

- 各学年とも育てたい能力や態度、目指す児童の姿を設定し、プロジェクトテーマのねらいにせまる学習活動を展開することができた。
- 学年のプロジェクトテーマは、発達段階に応じた内容であり、系統だった実践活動ができた。今後も段階を踏みながら社会や自然環境の関係性を認識させ、「つながり」を尊重できる個の育成をめざし、6 年間を見通した学びとしてつなげていきたい。
- それぞれの学年で体験的な活動、調べる活動、考えをまとめて発信する活動を通して、課題の追究する力や自分達にできることを実践する力を伸ばすことができた。
- 活動のふりかえりを大切にし、教師が児童の変容をとらえ、次の活動に上げていく支援をさらに大事にしたい。
- ESD ついて、まだ不明な点や学年の取り組みの情報交換など、共通理解をはからなければならないことが多い。来年度は、現職教育で ESD を研究の中心に位置づけ、授業研究なども行いながら、育てたい能力や態度の見直しや、活動内容の工夫、改善を図っていきたい。
- 課題解決に向けた実践や学びの発信をするためには、PTA や地域の協力が欠かせない。今後も ESD の啓発を図り、理解を得る必要がある。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）